

学生大使 実施報告書

氏名：高田優那

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部・人文社会科学科（人間文化コース）・2年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024/02/21～2024/03/06

1 日本語教室での活動内容

日向クラブという団体に所属するメンバーに、平日の午後6時から7時半までの90分間日本語を教えた。ベトナム国家農業大学内の教室で日本語教室は行われたが、参加者は社会人、他大学の学生、小学生など、年齢もその日本語学習レベルも様々であった。参加する人数は日によって異なるため、山形大学の学生14人よりも少ない場合は、日本人2人でベトナム人1人を教えることもあった。毎回担当する人はランダムで、様々な人と交流をすることができた。日本語学習を始めたばかりの人には、日本から持って行った五十音表を使って発音の練習を行った。学習者はやっていくうちに母音と子音の組み合わせのパターンを理解して、ひらがなの読み方をすぐに習得していた。一方、日本で働いていた経験のある、高い日本語レベルを持つ人とは、日本語能力試験N2レベルの参考書を一緒に解いた。日本人の話す日本語は難なく理解できるが、自分が話すことが苦手であると話していたので、参考書に登場する日本語は日常生活で使うかどうか、もっと使いやすく言いかえるとどうなるかなどを説明しながら参考書を解いた。また、日本からそれぞれお茶とお菓子をもち寄り、みんなでお茶会を楽しむ日もあった。普段はいくつか机をグループに分けて、ほとんど一対一で日本語を教えているが、その日はみんなで折り紙をしながら日本語や英語での会話を楽しんだ。日本語教室で気を付けていたことは、こちらが一方向的に話すだけにならないことである。日本語指導に関して素人であるため、必死に教えようとしても相手を退屈させてしまう。日本語を軸にコミュニケーションをとる時間だということを忘れずに、日本語授業に取り組んだ。また、日本語を話すことがまだ難しい人の場合、たびたびベトナム語では何と言うかを尋ねることにしていた。互いに学習者であり指導者である状態が、緊張をほぐしてくれたと思う。こちらもベトナム語やベトナムの文化を学べて大変充実した時間であった。

2 日本語教室以外での交流活動

毎日いろいろな所に連れて行ってもらい、そのどれもが大変刺激的で有意義な時間であった。ホアロー刑務所や文廟などベトナムの歴史に触れられる観光地では、現地学生から説明を受けることができて大変勉強になった。他にも空き時間にホテルの部屋で一緒に各自の課題に取り組んだり、ケーキやフルーツを食べるなどして交流した。普段は山形大生14名に数人の現地学生が加わって大人数で行動することが多かったが、食事の席や少人数のグループになったときの会話で仲を深めることができたと思う。また、希望者で早朝ジムに行って現

【学生大使 実施報告書】

地学生と運動したり、サッカーに参加したりして様々な国の人と交流した時間も印象的である。言葉がうまく通じなくても、スポーツや食事をともにするなど、交流の仕方は沢山あることを実感した。バスでの移動や交通量の多い道路を歩くときなど、常に私たちを気遣ってくれる現地学生に信頼感が芽生えるのは早く、2週間で非常に仲良くなることができた。

3 参加目標への達成度と努力した内容

今回の学生大使としての派遣活動では、積極的にコミュニケーションをとることと異文化に触れることを恐れないということを目指して参加した。日本語で会話ができない場合に英語によるコミュニケーションが必要となり、なかなかうまく話すことができなかった後悔がある。ただ、2週間で非常に多くの人と交流ができて、積極性という意味では目標を達成できたと感じる。打ち解けるのに時間がかかっているはずが2週間が終わってしまうため、なるべく沢山話しかけて、ベトナムについて尋ねることを意識した。また、予定に組まれていないような現地学生との交流の場にはなるべく参加した。日本では食べる機会のないものに挑戦したり、みんなでスポーツやカラオケをしてベトナムでしか体験できないことを多く経験することができた。

4 プログラムに参加した感想

日向クラブのメンバーのおかげで、ベトナムが大好きな国になった。海外に行くのは初めてで、非常に不安も大きかったが、母語以外の言語でコミュニケーションをとって私たちが過ごしやすいように常に計らってくれたベトナムの人々に非常に感謝している。最初は長いと思った2週間もあっという間に終わってしまって、お世話になった人々に会いにすぐにもベトナムに行きたい。日本語教室に関しては、日本語の指導経験も、日本語指導に関する知識もない状態で、最初は何をしたらよいのか分からなかった。しかし、日向クラブのメンバーも完璧な指導を求めているわけではなく、日本語と一緒に勉強するという感覚でいるとお互い充実した時間になると気が付いた。ベトナムに到着してすぐは日本との違いばかりが目についていたが、少し慣れてくると日本と同じ部分も沢山あることを知った。遠く離れた国で、これだけの人が日本語を勉強しようと思ってくれたことや、日本に興味を持って私たちと交流してくれたことが嬉しかった。日向クラブの人々のように外国語でのコミュニケーションをしながら、日本を紹介するようなことができるようになりたいと感じた。ベトナムの友人達には学生大使に参加しなければ出会えなかったと思うと、心から参加して良かったといえる。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回のベトナムへの学生大使としての活動経験から、もっといろいろな文化に触れてみたいと思うようになった。また、初の海外渡航で、自身が未知の文化への対応ができると知る

【学生大使 実施報告書】

機会にもなった。ベトナムを訪れてから、実際に行かないと体験できないことが海外に沢山あることを知り、非常にワクワクしている。積極的に交流するという意味では悔いのない2週間を過ごすことができたが、言葉が通じずもどかしい時もあったため、今度は外国語の学習に力を入れたい。彼らが日本を訪れるような時があったら、支えてくれた現地学生に恩返しをしたい。

6 現地での活動写真

日向クラブでお茶会



アオザイを着て大学で撮影



【学生大使 実施報告書】

ハロン湾でカヤック



多国籍サッカー

